

NEWSLETTER

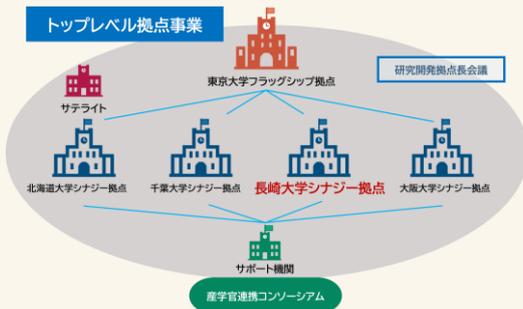
こんにちは！長崎大学感染症研究出島特区ワクチン研究開発拠点のニュースレターを創刊しました。本誌は私たちの活動や最新の情報をお届けすることを目的としております。皆様にとって有益な情報をお届けできるよう、内容の充実を図ってまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

国民の健康と経済を感染症から守るために

長崎大学感染症研究出島特区長 ワクチン研究開発拠点長 森田 公一

国内のワクチン開発に必要な体制を再構築する国家戦略、SCARDAプロジェクトの中で、長崎大学はシナジー拠点の一つに選ばれました。私たちの目標は次のパンデミックが発生した際、100日以内に安全で効果的なワクチンを提供できる体制を確立することです。この取り組みにより日本国内のみならず、世界中の人々の健康の維持、そして

経済の安定にも大きく貢献します。長崎大学では多くの研究者がそれぞれの専門分野で更なる技術革新に挑み、持続可能な未来の構築を目指しています。私たちの取り組みによって未来を守るワクチンを生み出すことができると信じています。



拠点を出島特区に設置

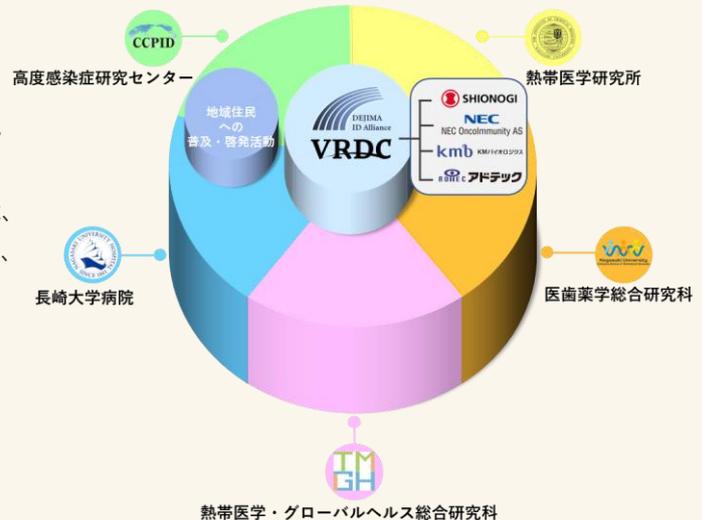
大学における従来の運用にしばられない独立性・自律性の確保

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは私たちに大きな教訓を残しました。それは国内における迅速かつ自律したワクチン開発体制の重要性です。長崎大学感染症研究出島特区ワクチン研究開発拠点(VRDC)は、独立した組織として位置づけられている感染症研究出島特区内において、高病原性病原体や熱帯性病原体に対するワクチンの開発を推進しています。また私たちの開発は大学と産業界が一体となって進められ、パートナー企業との連携やAI技術を活用することによって、より効率的で効果的なワクチン開発を目指しています。

DIDA

DEJIMA ID Alliance

長崎大学 感染症研究出島特区



NEWS

- ▶ **2024.4.24** SCARDAによる中間評価の実施
中間評価では達成度、進捗状況、今後の方向性についての確認が行われました
- ▶ **2024.7.31** SCARDAによる中間評価結果の通知
中間評価について結果が通知され、拠点の形成・運営状況、研究開発の進捗状況及び成果、実施体制についてコメントが付されました

第5回卓越大学院プログラム×長崎大学感染症研究出島特区
「ワクチン研究開発拠点」合同シンポジウム
「新たな感染症等の健康課題にレジリエント
なグローバル社会の構築を目指して」を
開催しました

----- From Feb 5, 2024, to Feb 6, 2024.

今回5回目を迎える長崎大学とロンドン大学衛生・熱帯医学大学院(LSHTM)のグローバルヘルスジョイントシンポジウムが、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の先進的研究開発戦略センター(SCARDA)「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業」と合同で開催されました。



今回の目的は公衆衛生の専門家とロボサイエンスの専門家が次のパンデミックの前に話し合い、相互理解を深めることです。第一部ではSCARDAワクチン研究者、ロンドン大学や東北大学の公衆衛生専門家、国際NGO専門家、国立感染症研究所専門家がそれぞれの立場から意見を述べました。第二部のパネルディスカッションでは、次のパンデミックとは何か、我々が備えておくべきことは何かをテーマに、会場に集まったWISE・ジョイントPhDの学生らとともに、熱い議論が展開されました。第三部のポスターセッションではすべてのWISE学生が発表し、長崎大学やロンドン大学の指導教員やSCARDA研究者らと分野を越えた有意義な議論が展開されました。



長崎大学卓越大学院「世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム」は、新たな感染症の健康課題にレジリエントなグローバル社会の構築を目指して、長崎と日本全国の関連機関・研究者を、そして長崎と世界をつなげてゆきます。



第1回AMED SCARDA「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業」合同シンポジウムが開催されました

--- From Jan 31, 2024, to Feb 2, 2024.



2024年1月31日(水)から2月2日(金)にかけて、国立京都国際会館にて第1回AMED SCARDA「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業」合同シンポジウムが開催されました。本シンポジウムにはAMED SCARDAをはじめ、フラッグシップ拠点、シナジー拠点、サポート機関から約300名が参加しました。多くの若手研究者が研究発表を行い、その研究成果が注目を集め、次世代の研究者たちのモチベーションが一層高まりました。また各拠点の最新の研究成果を共有し、今後の研究開発の方向性について議論が行われ、ワクチン開発のための研究基盤の強化や将来的な成果に向けた重要な一歩となりました。

長崎大学と国際ワクチン研究所(IVI)の
包括協力協定調印式を実施

----- Mar 7, 2024

2024年3月7日、長崎大学と国際ワクチン研究所(IVI)の包括協力協定の調印式が、韓国・ソウルのIVI本部において行われました。IVIは、国連開発計画(UNDP)と韓国政府の合意により、1997年に韓国・ソウルに設立され、世界の公衆衛生のために、安全で有効かつ安価なワクチンを発見、開発、提供するというミッションのもと活動を展開する国際機関です。一方、長崎大学は感染症研究に長年の実績を持ち、2022年には「感染症研究出島特区(DIDA)」を設置、日本医療研究開発機構(AMED)による「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業」の研究開発拠点にも採択されています。このように、長崎大学とIVIは、ワクチンの研究開発分野において、共通する部分が多く、連携による相乗効果が期待されます。



調印式当日は、本学の永安学長とIVIのJerome Kim所長が協定書に署名し、本学DIDAの森田特区長、山本副特区長、金子国際臨床開発部門長及びIVIの幹部・研究者らが臨席、双方の機関紹介や意見交換を行うとともに、密接な協力関係を構築しました。

7月6日は
ワクチンの日

市民公開講座

「ワクチン今昔物語～研究者の生のはなしを聞いてみよう～」を開催しました

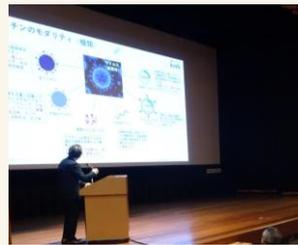
Jul 06, 2024

7月6日は「ワクチンの日」です。1885年のこの日、近代ワクチンの父といわれるフランスのルイ・パスツール博士が、狂犬病ワクチンを9歳の子供に接種し、その命を救いました。これは近代的なワクチン接種の最初の例であり、7月6日は「ワクチンの日」と呼ばれるようになりました。長崎大学では、日本のワクチン研究開発拠点の一つとして、ワクチンの開発を行っています。本学が深く関与しているワクチンについて市民の方々にもっと知っていただきたいと考え、研究者の「生のはなし」をお届けする市民公開講座、「ワクチン今昔物語」を開催しました。本学森田公一感染症研究出島特区長からは世界の感染症の現状について、飯島 渉熱帯医学ミュージアム館長からはワクチンの



歴史について、KMバイオロジクス株式会社 園田憲悟執行役員・研究開発本部製品開発部長からは現在のワクチン開発についてそれぞれ講演があり、長崎市内を中心に県内各地から集まった皆様が熱心に聴講されました。開催後にご協力

いただいたアンケートには、「日本のそして長崎のワクチンの歴史と取り組みがよくわかった」、「興味深いテーマの内容で、子どもにも多く聞いてほしいと思った」、「感染症や天然痘ワクチン開発の歴史から製薬企業の取り組みまで幅広く学べた」といった声をいただきました。次回の開催も企画しておりますので、ご参加をお待ちしております。



第15回長崎・シンガポール医学シンポジウムを開催しました

---- From July 11, 2024, to July 12, 2024.

2024年7月11日～12日、シンガポール国立大学(NUS)より11名の感染症、免疫系の研究者を招へいし、長崎大学医学部、医歯薬学総合研究科及び長崎大学感染症研究出島特区ワクチン研究開発拠点主催の「第15回長崎・シンガポール医学シンポジウム」を開催し、国内外よりおよそ110名の研究者が参加しました。本シンポジウムは、1984



年に当時の長崎県副知事である三村長年氏を団長とした一行がシンガポールを訪問し、第1回が開催されたことに始まりま

す。そして、この交流実績により、本学医学部とシンガポール国立大学(NUS)医学部は1985年に学術交流協定を結び、現在の医学部間交流に至ります。2006年からは、感染症分野に特化して、隔年で双方の大学においてシンポジウムを開催していましたが、2019年NUS主催によるシンガポールでの開催以降、コロナ感染症拡大に伴い開催を中止しており、この度5年ぶりに開催しました。

まず、永安学長、先方Nicholas GASCOIGNE教授、川上医歯薬学研究科長そして池松医学部長による開会の挨拶があり、その後、総数32名の研究者による口頭の研究発表が行われました。講演時間が足りない程の素晴らしい発表ばかりで、活発な質疑応答が行われ、感染症分野に関する相互の研究に改めて触れる機会となりました。

感染症疫学(感染症数理モデル)に関する教育・トレーニングを開催しました

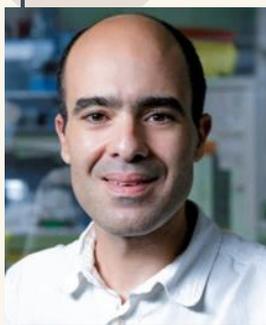
--- From July 22, 2024, to July 29, 2024.

SCARDAフラッグシップ拠点、シナジー拠点及びサポート機関所属の学生・職員の皆様を対象に、感染症の広がりやその動態、実際のアウトブレイクにおけるデータ解釈の注意点など、感染症疫学と数理モデルに関する概念と実践についての習得を目的とした6日間の感染症疫学短期コース、「Introduction to Infectious Disease Epidemiology and Modelling」が長崎大学坂本キャンパスにて開催されました。



第二回の開催となった今回は、前回よりもさらに多様な講師陣を国内外より招聘し(長崎大学、東京大学、国立感染症研究所、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院、ノースカロライナ大学、オランダ国立公衆衛生環境研究所、シンガポール国立大学など)、約30名の多様な国籍・バックグラウンドを持つ受講生が参加しました。英語での講義・特別講演とグループワークを経て、感染症疫学の基本的な考え方や実践について学んでいただき、充実したコースとなりました。

Kaidre Bendjama



私はフランス出身で、これまでがんと感染症の治療法開発に携わってきました。私は情報科学技術を用いた解析が医薬品開発において大きな変革をもたらすと確信しており、元々の専門である免疫学に加え、積極的に情報科学技術を取り入れた研究開発を推進しています。NEC OncoimmunityのCSOとして、機械学習と人工知能の専門家チームを率い、新規ワクチン及び治療薬の開発・効率化に取り組んでいます。私は長崎大学のSCARDAプロジェクトの一員として、ワクチンバイオフィーマティクス研究をリードしています。

基礎研究部門 – ワクチンデザインと評価

ゲノムベース医薬品デザインチーム

長崎大学熱帯医学研究所 教授

NEC OncoImmunity AS

研究開発活動、運営マネジメントを統括



New VRDC Members



QIANG XU



私は、ワクチン研究開発センターの研究者で、2024年に長崎大学熱帯医学研究所で博士号を取得しました。中国出身で、COVID-19パンデミック中にウイルス学に強い関心を持ち、この分野で高度な研究を追求するようになりました。私の研究は、主に重症熱性血小板減少症候群ウイルス(SFTSV)の疫学とその転写および複製メカニズムに焦点を当てています。ウイルス性疾患の予防と制御にさらに効果的に貢献できるように研究を進め、専門知識を高めることに尽力しています。

基礎研究部門 – ワクチン開発

熱帯性ウイルス医薬品開発チーム

長崎大学熱帯医学研究所 特任研究員

病原体解析部門 ウイルス学

研究開発活動

NADIRA D. KARUNAWEERA



私は、スリランカのコロポ大学医学部寄生虫学学科長兼上級教授、米国ハーバード大学公衆衛生大学院名誉客員研究員およびインドジャミア・ハムダード大学非常勤教授です。医学寄生虫学者としての訓練を受け、熱帯病、特に媒介性疾患に関する広範な教育、管理、研究経験を持っています。日本のグローバルヘルスイノベーションテクノロジー (GHIT) など、多くの国内外の科学審査委員会や諮問委員会に所属し、研究における意思決定や政策関連事項に貢献し続けています。

基礎研究部門 – ワクチン開発

寄生虫医薬品開発チーム

長崎大学熱帯医学研究所 教授

病原体解析部門 原虫学

研究開発活動、運営管理の監督

お問い合わせ / 長崎大学感染症研究出島特区ワクチン研究開発拠点

〒852-8523 長崎県長崎市坂本1-12-4 TEL:095-800-4316

E-mail:dejima@ml.nagasaki-u.ac.jp <https://dida.nagasaki-u.ac.jp/vrdc/>



WEBサイトはこちら▶

長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

